

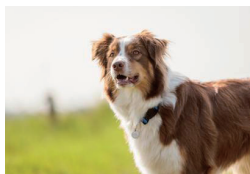
犬のアレルギーとはどんな症状なのか？

原因・対策・治療方法とは

人間が犬アレルギーや猫アレルギーなどの動物アレルギーになることは知られていますが、実は、犬も人間と同様に、アレルギーにかかることがあります。犬のアレルギーとは具体的にどのようなものなのか、原因・対策・治療方法などをお伝えしていきます。



犬がアレルギーになりやすい年齢



犬がアレルギーになりやすい年齢は、アトピー性皮膚炎に関しては、一般的に6ヶ月～3歳あたりまでと言われています。その他のノミアレルギー性皮膚炎や食物アレルギーについては、特に年齢に関係なく発症します。

アレルギーになりやすい犬の体質

アトピー性皮膚炎などは、遺伝的な素因も考えられるものの、詳しい原因はわかっていません。たとえ、清潔な環境に住み、健康的な食事をとっている犬であっても、何らかの原因によってアレルギー性皮膚炎になることが報告されています。

アレルギーになりやすい犬種

アトピー性皮膚炎の場合は、柴犬、レトリバー種、シー・ズーなどがなりやすい犬種とされています。また、食物アレルギーになりやすい犬種は、コッカー・スパニエル、スプリングー・スパニエル、ダルメシアン、ボクサー、コリーなどが挙げられます。その他、アトピー性皮膚炎を罹患する犬は、ノミアレルギー性皮膚炎や食物アレルギーにもなりやすい、といった相関関係の報告も行われています。

1

アトピー性皮膚炎

・原因

アトピー性皮膚炎は、環境アレルギーの一種です。空気中に舞う花粉などの季節性アレルギーや、カビ、イエダニ、動物の落す皮膚片や毛断片などの通年性アレルギーを原因として、アレルギー反応を起こします。

・症状

アトピー性皮膚炎の初期症状としては、顔の周辺、足、腹部、下胸部などに生じるかゆみが挙げられます。4ヶ月～7歳で発症するケースが多く、特に1～3歳はよく症状がみられる年齢です。

・治療方法

アトピー性皮膚炎は生涯続くため、完治させることが難しいアレルギーです。薬物治療を行ったり、薬用シャンプーや薬用コンディショナーなどを使用したり、アレルギーを除外したりすることにより、痒みの症状を軽減させる対症療法的な治療方法を行います。その他、アレルギーを少量ずつ犬に注射することで、身体を徐々に慣らしていく減感作療法と呼ばれる治療方法もあります。



2

ノミアレルギー性皮膚炎

・原因

ノミアレルギー性皮膚炎の原因は、ノミの咬傷です。ノミアレルギー性皮膚炎にかかった犬は、腹部、背中、後ろ足、尻尾などを噛み、ホットスポットのような二次的な局所性皮膚感染症を発症する可能性も高いです。

・症状

ノミアレルギー性皮膚炎を発症すると、激しい痒みから、犬は体を掻きむしったり、頻繁に体表を噛んだりする仕草を行います。そして、痒みを感じる患部に掻き傷ができたり、皮膚のただれがみられたり、ノミやノミの糞が体表に付着していたりします。

・治療方法

ノミアレルギー性皮膚炎では、原因となるノミを駆除することが重要となります。犬の居住空間に発生するノミを駆除するためにこまめに室内の掃除をするなどし、ノミに寄生されない生活環境づくりを行います。

3**食物アレルギー****・原因**

犬の食物アレルギーは、主に、牛肉、鶏肉、卵、大豆などのたんぱく質や小麦、米などの穀物をアレルゲンとします。免疫が、特定の食物成分を異物として認識してしまうことで発症します。

・症状

犬の食物アレルギーでよくみられる症状は、身体を頻繁に掻いたり、舐めたり、噛んだりする動作です。その他、外耳炎や、下痢などの消化器系疾患を併発することもあります。

・治療方法

アレルゲンとなる食物を特定し、それ以外の食物を与えるようにすることで、症状の改善を見込むことができます。その他、獣医師から抗ヒスタミン剤や、ステロイド剤の処方を受けるケースもあります。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

 **LINE 公式サイト** **LINE@友達募集中** →

